

〔農場紹介〕

有限会社 ポークランド

常務取締役 加藤 仁

当社は、秋田県と青森県の県境に位置する秋田県鹿角郡小坂町にある。小坂町は、十和田湖近く秋田県側からの入口であり、人口7,600人ほどの町である。

当社の建設計画は、隣接する鹿角市に北鹿食肉流通センター「株式会社ミートランド」(処理能力;14万4千頭)の建設を契機に開始した。肉豚の大生産地として知られる鹿角市を含む秋田県の北鹿地区で生産される肉豚は、約6万頭であった。その残りの7~8万頭を「JAかつの」が中心となり、系統としてSPF肉豚生産農場を建設する構想が構築された。そして、平成7年2月に「有限会社ポークランド」を設立した。

養豚農家が一軒もない小坂町の牛の放牧地であった高台の平地の中から各種条件(輸送、立地、環境対策など)を検討した結果、現在の場所にSPF豚農場を建設した。そして、平成8年6月より種豚(ハイコープSPF豚)の導入を開始した。平成8年11月から分娩を開始し、平成9年4月末から肉豚の出荷が始まった。平成9年12月にはSPF豚協会の認定を得た。

農場内は、繁殖、分娩、肥育の3部門で構成され、各部5名の正社員15名体制である。平成9年4月より4週8休体制のため常時出勤は、各部で3.8名となっている。社員は、養豚未経験者であり、平均年齢28.5歳と若年層が中心である。正社員のほかに、シルバー人材派遣会社から2名、知的障害福祉施設から3名のアルバイト社員を雇っ

ている。農場従業員は、養豚未経験者であるが、情熱とやる気を十分持ち合わせている。現在の成績は表1に示したが、今年度は当初目標の3万5千頭の肉豚が出荷できると予想している。

豚舎施設は、交配確認豚舎1棟、妊娠豚舎1棟、分娩豚舎2棟、肥育豚舎9棟で、計13棟が、直線に並んで建てられている。豚舎は、すべて陰圧換気によるウインドレス豚舎で、換気は、コンピュータ方式(ファンコム社製)で制御されている。換気方法の特徴として、天井部分はフォーリーシートを全豚舎に採用し、舎内の温度むらを減らし、豚体へ直接風が当たらないようになっている。分娩舎2棟は、スラリー・ストック方式で、残りの11棟は、コンクリートスノコのスクレーパー方式を採用している。

交配は、AIを中心とした方式であるため、雄豚房が48豚房で雄と雌の比率は1:35である。母豚は、交配確認豚舎で交配から初回の受胎確認を行っているため、種付けから約21日後に妊娠豚舎へ移動する。その後、分娩予定日の7~10日前に、週1回、分娩豚舎へ移動している。分娩した母豚は、平均21日間授乳し、交配確認豚舎へ移動している。離乳は、週3回実施しているが、離乳子豚はそのまま分娩舎に残り、約56日齢(約8週齢)で肥育豚舎へ移動し、出荷まで飼育している。

糞尿処理については、農場敷地内に併設する「有限会社 小坂クリーンセンター」(処理能力/日:現尿100m³,糞66t)に委託している。尿処理につ

いては、BMW方式で、生成された「生物活性水」は、畜舎内の清掃や、希釈して豚の飲料水に利用している。糞処理は、発酵完熟堆肥製造工程で処理されている。発酵堆肥は、地域園芸農家に供給し、有機農業に利用されている。

農場で生産された肉豚は、十和田高原ポーク「桃豚」のブランド名で、「ミートランド」で処理・加工された後、全農を通じて首都圏の量販店に販売されている。また、独自ブランドでの地元における販売も計画している。

当社は、養豚農家のない小坂町にSPF豚農場を建設したため、疾病の侵入リスクを低減することができている。また、小坂町は鉱山の町として発展してきたが、鉱山が衰退したため、「町おこし」として有機農業を推進している。有機農業に必要な堆肥供給者としても当社は、町をあげて盛り上げてもらっている。

表1 繁殖成績（平成9年9月～平成10年8月）

繁殖母豚	1,553頭
繁殖雄豚	51頭
♂：♀	1：30
種付頭数	4,088頭
分娩腹数	3,475頭
分娩率	85.0%
総産子数	10.84頭/腹
正常産子数	9.91頭/腹
離乳頭数	9.71頭/腹
離乳率	98.0%
離乳時体重	6.67kg
哺育日数	20.8日
生時体重	1.51kg
更新率	19.0%
平均産次	4.1産
平均出荷体重	111.5kg
平均枝肉重量	72.5kg
上物割合	60.5%
中物割合	28.2%
並以下	11.3%
事故率	1.5%